

さくらだより

vol. 28

2023年4月20日発行



仙台工場 工場長

大坂 大輔

(前編に続く)

「自分はひとりで働いていたのではなく、まわりに活かされていたのだ。」

さくら株式会社から他社へ転職したことで、そんな気づきを得た大坂大輔。再びさくらの一員となり、配管工として活躍していたが、仙台工場の工場長就任を打診された。その生活は一変する。工場長の立場となつてはじめて目にした世界とは。仕事に対する思い、そして仲間たちへの思いを聞いた。

新たなチャレンジ

「工場長なんて、自分にはとても無理です。」

当初はそう断った大坂だったが、高橋からの説得は止まらなかった。仕事において決して「できない」と口にしない高橋は、社員にも簡単に、「できない」とはいわせなかったのだ。粘り強く熱意ある説得になかば根負けするよう

なかたちで、大坂は工場長の職を引き受けた。長年にわたって職人として現場に立ってきた大坂にとって、工場長の仕事は未知の世界。不安があったのも事実だが、高橋が自分を信じて任せてくれたことが心から嬉しかったという。

こうして次の一步を踏み出した大坂だが、ここからの道のりは決して平坦なものではなかった。作業工程の管理や安全面の徹底はもちろんだが、最も神経を遣ったのはやはり人間関係。たとえば、天候やお客様の都合で現場が急に休みになったとき、普段は現場で働く職人たちが工場へやって来る。人手が増えるのはありがたいが、一人ひとりの個性をしっかりと見極め、適切な人材配置をするのは容易ではない。

「この作業、こうした方がいいんじゃないですか？」

職人からの何気ないアドバイスが、毎日工場働いている社員を戸惑わせてしまうときもある。些

力になれる点があるかもしれないと思うからだ。

高いモチベーションを胸に、挑戦は続く

日々前向きに仕事に取り組む大坂のモチベーションは、交際している彼女とその子ども。家族のように大切なこの二人とともに休日に出かけるのが何よりの楽しみだ。車の改造も、かけがえのない趣味のひとつ。大切なもの、楽しみなものがあるからこそ、忙しい日々を駆け抜けていけるのだ。

「二歩ずつでも半歩ずつでも、自分なりのスピードで進んでいきたいと考えています。」

未来を見据え、大坂は力強くこう語る。社会人として世に飛び出してから今日までを振り返ると、さくらでの毎日が最も忙しく、大変だと感じている。その一方でやりがいも大きく、自分自身の成長を最も実感できるのもまた、さくらにほかならない。素晴らしい仲

細な意見の食い違いが口論に発展し、慌てて仲裁に入る日もしばしばだ。職人時代には見えてこなかったものの多さに面食らいつつも、工場働く全員が気持ちよく働けるよう最善を尽くす。周囲と協力し、チームで働くことの大切さを肌で感じる毎日だ。

対立を恐れず、意見を出し合い、未来を切り拓く

「さくらは、これからもっともっと大きくなる会社だと確信しています。新工場の建設も着々と進んでおり、仕事量も従業員数も増えていくでしょう。今まで以上にチームワークを高めて仕事ができるよう、努力を惜しまないつもりです。」

そのために必要なのは、何とんでも社内でのコミュニケーション。疑問や意見はどんどん出してほしいと考えている。ときには意見が対立し、ぶつかり合う日



企業情報

設立年：2012年4月

年商：11.6億円

※ 2022年3月決算時点

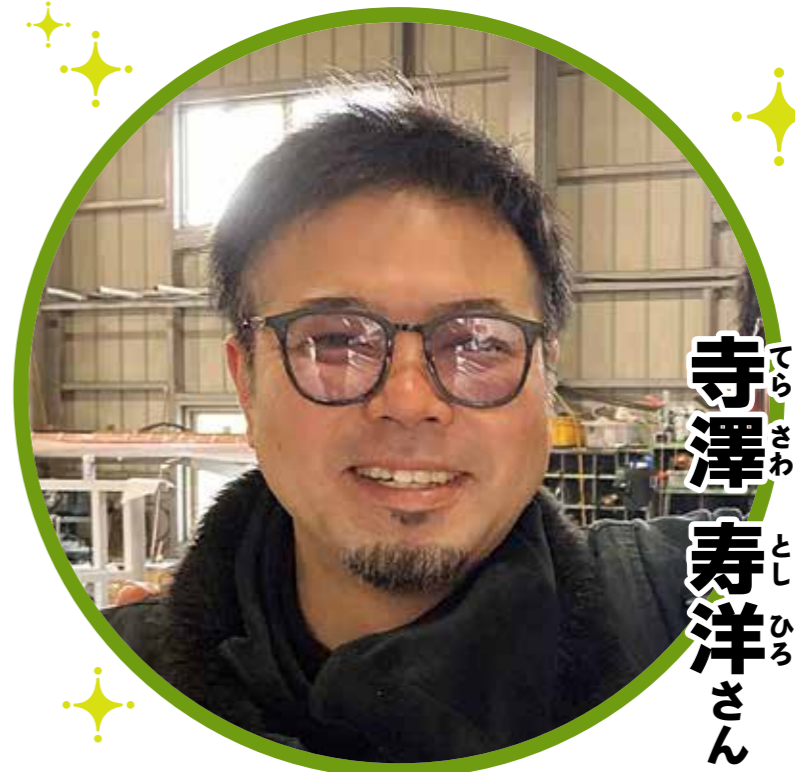


岩井翔一さん
配管工事



後輩 × 先輩

会社にとって重要な若手社員の教育。さくら株式会社ではどんな取り組みをしているのでしょうか。そして取り組みの結果、どのような成長を遂げたのでしょうか。ベテラン、若手それぞれの視点から語ってくださいました！



寺澤寿洋さん
常務

寺澤常務から教わっていること

考えや気持ちをアウトプットすることの重要性

寺澤常務からは、仕事面やプライベート面において、様々なことを教わっています。仕事では「現場の状況を把握すること」や「人の動かし方」、そして「次やるべきことの見極め」などについて指導してくれています。また、私自身のマインド面に対してアドバイスをいただけることも少なくありません。以前、「嫌なものは嫌だとはっきり言いなさい」という指摘を受けることがありました。

例えば、私はプライベートのお誘いがあっても「わかりました！」と即OKし、「嫌だ」とは言いません。もちろん、それはそれでコミュニケーション深化において良いことです。しかし、その指摘の真意は別。プライベートでも仕事でも、「意見をはっきりと主張することの大切さ」についてのレクチャーでした。

印象に残っている言葉

向上心を奮い立たせる一言

「1回できたのであれば、次やるときはもう少し効率良く行うことを考えよう」という言葉が印

象に残っています。ただし、言葉を理解するのと、実際に実現させるのは別話です。私は場数をこなして、体で感覚を覚えていくタイプ。その言葉を成果として挙げるためには、とにかく数多くの経験を積み重ねたいと思っています。私の性格を良くご存知なのか、寺澤常務だけではなく、実は上司や先輩からも「とにかく数をこなせ」と発破をかけていただいている日々。皆さんから教えを胸に留め、日々のアクションに生かしています。

寺澤常務の尊敬しているところ

後輩社員や部下に対するケアが厚い！

離れた現場にいても、「最近どうだ？大丈夫か？」と気遣ってくれます。別の現場にいる場合、私から寺澤常務へ連絡することは少ないので、しばらく顔を合わさない日が続くと、「おい何で電話してこないんだ！」とお叱りを受けます(笑)

今後の意気込み

これからは寺澤常務を始めとした上司・先輩の方々の教えを吸収し、より一層体を動かして学んでいく所存です。数多くの現場で経験を積み、周囲に迷惑をかけず、力を発揮していきたいと思っています！

message
メッセージ

若手教育に対する思い

わかりやすく丁寧な指導を

特別な研修などは設けていませんが、会社として、若手社員にしっかりと成長してもらえたい環境でありたいと思っています。そのため、困ったことや、わからないことがあった際には、わかりやすく丁寧に指導するように心がけています。

後輩社員岩井さんの成長

いずれは会社の主軸に

入社当時は目の前の仕事に精一杯で、混乱することもあったようでしたが、現在はそういったこともなくなったように思います。最近では、自分の仕事だけに集中するのではなく、周囲にも気を配れるようになってきたのではないのでしょうか。周りをよく見て、人に対しても、仕事に対しても、適切な判断をして、上手に的確な指示を出せるようになれば、管理職も目指していけると思っています。会社の主軸へと成長できるよう、今後の活躍も期待しています！



若手教育で大切にしていること

適性を見極めと見守ること

仕事をおもしろいと思えないと、長く続けることは難しいと思っています。そのため、「何に興味があるのか」、「どんな作業をおもしろいと思っているか」を見極めることを大切にしています。例えば、「体を動かすこと」が好きなのか、「頭を使って考えること」が好きなのか、「同じことやり続けること」と、「違うことにどんどんチャレンジすること」のどちらが得意か、などです。好きなことや適性を知り、極力それに合わせて仕事を任せ、個々の個性を伸ばした上で仕事に興味を持ってもらえるよう、工夫しています。もう一つは、モチベーションや、それぞれの状況を知ることです。人間ですので、プライベートで何かあって仕事に手が付かないこともあると思います。そのときは、そっと見守りつつ、何かあればさりげなくフォローするというのも、管理職として大切な仕事の1つだと考えています。

何かあれば相談を！

どんどん気楽に話しかけてほしいと思っています。難しいと思いますが(笑)何か困ったことがあればいつでも相談してください！一緒に解決していきましょう。

message
メッセージ